【呉市】１人１台端末の利活用に係る計画

１　１人１台端末をはじめとするＩＣＴ環境によって実現を目指す学びの姿

課題発見・解決の過程を通して，何が重要かを主体的に考え，他者と協働し，新たな価値を共創するために必要な情報活用能力を育成する。そのために，１人１台端末をはじめとするＩＣＴ環境を積極的に活用し，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。さらに，児童生徒がこれまで以上にデータを利活用し，自己の成長や良さを認識し，自ら学習を調整したり，様々な「人・もの・こと」とつながるための方法を自ら選択したりできるようにする。

２　ＧＩＧＡ第１期の総括

教職員アンケート（肯定的回答）	全体	小学校	中学校
授業でｉＰａｄを使うことができる。 ※呉市教育振興基本計画の指標【Ｒ８：１００％】	９７．３％	９８．９％	９５．０％

児童・生徒アンケート（肯定的回答）	児童	生徒
タブレットの使用は，勉強の役に立つ。 ※呉市教育振興基本計画の指標【Ｒ８：９６．０％】	９７．７％	９７．６％

（令和６年度タブレット端末（ｉＰａｄ）のアンケート調査より一部抜粋・改変）

ＧＩＧＡ第１期では，１人１台端末の整備やネットワーク環境の構築を進めた。その中で，導入初年度である令和３年度は「タブレットをとにかく使う」，令和４年度からは「タブレットを効果的に活用する」をスローガンとし，統合型校務支援システム，保護者連絡システム，授業支援クラウドツール，ＡＩ型デジタルドリル等を導入し，授業改善と業務改善を一体的に推進してきた。令和７年２月に実施したタブレット端末の活用に係るアンケートでは上記の結果となった。

これらの結果から，児童生徒にとって，タブレットは文房具と同じくらいなじみの深いものになりつつあり，児童生徒はＩＣＴを活用して学ぶ効果を実感していると言える。また，授業支援クラウドツールの活用はもとより，職員会議等でのペーパーレス化，各種アンケートにおけるクラウドツールの使用等，校務においてもデジタル化が進展しており，教職員もその効果を実感していると言える。

一方で，児童生徒の実態によっては，端末活用に係るトラブルが多い学校もあるため，学校間でのＩＣＴ活用に格差が生じており，ＩＣＴの効果を感じられないままとなっている児童生徒・教職員もいる。このため，ＧＩＧＡ第２期では児童生徒・教職員がＩＣＴの効果を感じられるよう，実態に応じた教職員の研修を充実させ，より一層の端末及びクラウド活用を推進させることで，呉市教育振興基本計画の指標達成を目指す。

３　１人１台端末の利活用方策

１人１台端末のさらなる利活用を進め，「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

「個別最適な学び」の実現においては，児童生徒一人一人の実態や学習進度に応じた指導の個別化を進めるとともに，興味・関心や意欲に応じた学習活動の機会を提供する学習の個性化を目指していくことが重要である。また，

「協働的な学び」の実現においては，児童生徒が考え方を組み合わせ，よりよい学びを生み出す教育を実践していく必要がある。そのためのツールの１つとして，タブレットの効果的，組織的活用を推進する。

具体的には，ＡＩ型デジタルドリル等の学習履歴や生徒指導上のデータの利活用を進める。また，今後，さらなる活用が見込まれるＣＢＴについても，そのデータ利活用の方策を探っていく。さらに，授業支援クラウドツールを活用しデータを共有することで，友達の意見や考えに触れたり，自分の意見や考えを表現したりする機会を充実させる。

このような学習を実現するために，１人１台端末の整備・更新により，児童生徒向けの１人１台端末環境を引き続き維持することが必要不可欠である。